



2019年10月4日

ノーベル平和賞受賞 デニ・ムクウェゲ医師 東大講演会

「平和・正義の実現と女性の人権」

基調講演 日本語訳

東京大学総長閣下、未来ビジョン研究センター長閣下、コンゴの性暴力と紛争を考える会のみなさま、学術関係者のみなさま、ご来賓のみなさま、親愛なる学生のみなさま、お集まりのみなさま。まずは東京大学に感謝を申し上げます。みなさまとともに大学という知の学府で、平和と正義、女性の権利について共有することができ、大変うれしく思っております。未来ビジョン研究センターにも感謝申し上げます。多くのイニシアティブが未来のために取られ、グローバルな形を取っていることを大変うれしく思います。「誰ひとり取り残さない」を実現して始めて、世界はより良くなるのです。

今日は私がとても大切にしているテーマ、私の人生をその闘いにあてているテーマについて東京大学で話すことができ大変な喜びです。そのテーマとは正義と平和、女性の権利です。平和と正義は切っても切れない相互依存した概念で、相互にお互いを強化させるものです。正義のない平和はなく、平和と正義なくして女性の権利の尊重はかないません。1948年の世界人権宣言の前文には、『人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義および平和の基礎である』と書かれています。この宣言後も人権保護のための国際基準が多く採択されました。特に女性は積極的に意識改革と法整備を勝ち取り、基本的自由を手に入れてきました。そのおかげで20世紀の後半は、世界の中でも女性の権利が飛躍的に前進した時期でもありました。

ご列席のみなさま、少し前までは女性は投票権を持たず、仕事をすることも自分の財産を持つことも許されず、後継人が父親から夫に譲られるような時代でした。戦争で男性たちは一代丸々戦闘で倒れ、あるいは負傷しました。戦後はその中で女性が勇気と価値を示し、ジェンダー間の関係も固定したのではなく、むしろ変化し、変わることができることを示してきました。

こうして徐々に変化は起こっていきましたが、まだ平等には至っていません。女性は徐々に仕事上の責任ある地位に就くようになり、金銭的自立を得て、自分の身体を自分で自由にすることができるようになり、企業の社長に選ばれるようになり、ついには国家元首に選出されるようになりました。これらの変化は男性支配のパラダイムを根底から覆し、平等と相互尊重に基づく包摂的な観念を包含するようになりました。世界各地で女性と男性の関係の顕著な変化は、家族関係においても社会全体にも見られ、人間社会の発展や経済成長、そして先進的民主主義社会の構築の大きな要因となってきました。

しかし、ここ数十年の目覚ましい前進は、まだまだ脆弱です。国際人道法や人権はあらゆる大陸で常に踏みにじられています。2019年にあってもあらゆる権利が、そして特に女性の権利、性と生殖に関する権利が侵害されています。例えば避妊権の侵害等です。これは私たちの文明の忌むべき後退であり、20世紀得られた最も大きな退歩です。

私は国連決議2467の採択のための協議の際、国連安保理にいました。何週間も何時間も性と生殖に関する権利について議論していたことに驚きました。すでに確立されていると思われる権利について話し



ていたためです。ですが、後退してしまっはなりません。愚かしいのは、私たちの基本的権利や自由の後退が、現在のナショナリズムやポピュリズムの台頭という不安な状況の中で、堂々と地位を得ていることです。この下方修正は、かつて先進的な国だった国の指導者の、男性優位の言葉や、時代と逆行する政策にはっきり現れています。また、恐怖をまき散らすことで、自己を認めさせる方法しか知らない、強いといわれている男たちのすべてによって示されているのです。女性の権利が侵されるといふ今の後退の傾向を見て、私たちは昨日得た権利も今日再び確認しなければ、明日は堅固にならないと認識させられます。この認識は世界全体に言えることです。女性は私たちが望む平等をなかなか獲得することができません。紛争下の暴力、特に私の出身地である、コンゴ民主共和国の東部での暴力は、平和なときに社会の中にまた家庭の中に存在している差別、悪習、暴力が強調された結果、生まれているのです。

ブカヴは南キヴ州の州都で、私はそこにパンジ病院を20年前に建てました。ブカヴは残念ながらレイプの中心地と呼ばれています。20年以上前から私たちに課された経済紛争から、戦争の武器として、また恐怖を植え付ける戦略として、レイプが私たちの地域で使われるようになりました。これらの野蛮な行為は生活の基盤を壊し、家族関係を壊し、社会の経済の基盤を破壊し、共同体全体に恐怖を植え付け、服従を余儀なくさせます。あるいは逃げ去らざるを得なくしているのです。その後、地方の指導者や多国籍企業に遠隔操作されている民兵たちが自由に入り込み、私たちの地方の豊かな鉱物資源や天然資源を独占しているのです。この経済紛争が治安と政治の不安の根本原因であり、600万人以上の命を奪っています。未来ビジョン研究センター長も言われたとおり、第二次大戦後の最大の悲劇を生んでいるのです。400万人以上の人々が住む地を追われ、避難民となっています。5年の間、6か月以上1か所にいることができなかつた人々に私は会いました。一つの場所に逃げても武装勢力に追い出されて、また次の所へ行かなければいけません。だからこそ収穫もできないのです。そのような国内の避難民のその後がどうなるか、私たちも容易に想像できるでしょう。

また、何十万人の女性が性暴力に遭っています。パンジ病院で治療をしている人たちは氷山の一角にすぎません。この暴力のサイクルは、残念ながら今も続いています。パンジ病院では女性の身体におよぼされた、残酷で非人間的な劣る行為の結果を治療し続けています。ここ25年の間パンジ基金では、生存者とその共同体のための包括的なケアを行っています。被害に遭っているのは個人だけではなく、共同体も被害に遭っているのです。1999年以来、10万人近くの患者の治療をし、5万5000人の性暴力の生存者を治療してきましたが、4万5000人は非常に深刻な婦人病に悩んでいます。例えば泌尿器や生殖器のフィスチュラ等です。先進国では多くの場合、理想的な産婦人科治療によってこれらの疾患はもう存在していないような疾患ですが、紛争下の脆弱な国ではまだ存在しています。性器脱等もみられます。

暴力はあらゆる年齢の女性におよんでいます。非常に多くの女性が苦しんでいます。私は赤ちゃんも手術しました。いちばん若い女性は6か月の赤ちゃんです。大人によってレイプされたのです。そのために内臓が完全に破壊されています。また、高齢者では80歳以上の女性もいました。毎日、パンジ病院には平均10人の性暴力の被害者が運び込まれます。

ワンストップセンターのような、患者の異なるニーズに一つの場所で応える仕組みが徐々に作られて



います。この制度ですと被害を受けた女性たちは一度だけ自分の経験を語れば、それで済みます。そうでなければ、一つの科へ行って話をし、また次へ行けば、そこでも話をしなければいけません。それは追加のトラウマを生み、被害者はそのようなことを続けることができません。トラウマのために、次の科に行ってくださいと言われても行けないのです。ですから、ワンストップセンターによって一つの場所で包括的に対応することができるようにしました。ワンストップセンターでは本人のニーズに合った、個々人に対応したサポートを受けることができます。肉体的ケア、心理ケア、医療ケアも受けることができます。また、経済、社会復帰のためのサポート、無料で司法へのアクセスも可能です。毎日、患者のレジリエンスと力強さに私たちは驚き、感動しています。

この包括的サポートにより、まず被害者の心理的回復に努めます。それは性暴力を受けた人たち、それも人々の前で数人からレイプされ、性器に拷問を受けた人たちにとって、心理的に治療を受入れる状況にならなければ、治療もできないからです。まず心理的に回復して始めて、医療的な治療ができるようになります。時には複雑な手術をしなければなりません。中には結腸瘻造設術をしなければならない場合もあります。そのようにして回復していきます。

その後その女性達は新たな能力を身に付け、付加価値を身に付け、共同体に再び復帰するのです。共同体にとっても、彼女が付加価値をもたらすことで恩恵を受けます。性暴力の被害者の非常に大きな苦しみが力に変わっていくのをサポートすることができて私たちもうれしいです。四つの分野のケアを受けることにより、共同体のリーダーになり、共同体に変化をもたらす因子になっていくわけです。そして自分や自分の子どもの権利を守るだけでなく、すべての人の権利と尊厳を擁護する人になることを見て、私たちも感動するのです。

すべての人、特に女性と少女が教育と保健の恩恵を受けられるようにするべきです。教育を受けて自立すれば、人生の中で性暴力や暴力の犠牲になる可能性は少なくなるからです。先ほど持続可能な開発目標（SDGs）と言われましたけれども、女性たちがこのような包括的ケアを受けることで、SDGsの五つの目標を達成できるようになることがわかりました。おぞましい状況や非人道的な状況を経験した人たちすべてが、このような包括的サポートを受けることができるようにしていく必要があります。これは人間の権利なのです。

本当に最悪の事態を体験した女性たちは、再び生きる気力を持つようになります。その勇気と能力に私たちは日々励まされて仕事に向かい、また闘いを続けようと決意するのです。

しかし私たちは被害者の第2世代を治療し始めました。レイプで生まれた子どもが、またティーンエージャーのときにレイプされる。そのときに手術室だけで解決は得られないことに気が付きました。女性は2回目も運ばれてくるのです。残念ながら、私たちはレイプから生まれた子どもたちがまたレイプされるのを目の当たりにしました。それで私たちは、病院から出て、世界を回り、世論に状況の深刻さを知らせ、被害者の権利を擁護し、暴力の根本原因と闘う必要性を訴えるようになりました。その根本原因とは、不処罰です。暴行をしても罪に問われない。また汚職があります。そして不法な紛争下の鉱物資源の開発があります。残念ながら、そのような鉱物資源は私たちのポケットに入っている製品に使われていますが、罪を裁くことは出来ていません。一部の情報源によれば、世界のコルタンの80パーセ



ントは、この紛争地から採掘されているとのこと。そこでは女性の身体が戦場となっています。私たち皆がポケットに入れている、この鉱物資源管理をめぐって、女性はその争いの被害者となっているのです。ですから、私たちには責任があると思います。日々その状況を変えていかなければいけません。私たちの携帯電話が、クリーンな携帯電話であるかどうかを確認して持つことが重要です。私たちの持っている携帯電話やコンピューター等は必要なもので、それが悪いわけではありません。しかし、沈黙が問題です。沈黙自体が罪になるのです。

私たちはアドボカシーをまず当然自国で始めました。自国の当局へのアドボカシーを始めました。その後世界中に広げました。世界中で性暴力の被害者が同じような苦しみを経験しているからです。一つの場所で行われているだけの問題ではなく、あらゆる場所で同じような戦争の戦略が使われているということが、早い段階でわかりました。

これは単純な人道的危機ではありません。私たち人類の危機なのです。だからこそ私たちは考えなくてはなりません。女性の体を戦場にしている、これはただ人道に対する危機として解決するわけにはいきません。私たち共通の人類が、私たちの人類が苦悩しています。私たちは責任をとらなければなりません。ボスニア、ルワンダ、スーダンでも民族浄化の方法としてレイプが使われてきました。ナイジェリア、イラク、シリアでは奴隷市場で女性が売られています。21世紀にです。これはまさに国際社会、人類の恥です。そして私たち人類に疑問を呈するのです。コロンビアやコンゴ民主共和国では、低俗な経済的利益のために、あるいはコカインの生産、金やコルタンなどの鉱物資源の不法な採掘のために、暴力がまん延しています。そこでは女性や子どもが第一の犠牲者です。女性に対する大規模な性暴力が繰り返されないためにも、私たちはアドボカシーを行い、男女の平等や正義と平和を訴えているのです。私たちは信じています。平等によって、正義によって、司法によって、世界の女性の権利は守られると信じています。それらが平和への扉なのです。

ご列席のみなさま、世界女性会議の北京宣言および行動綱領の採択から25年が経ちました。ジェンダー不平等は残念ながら過去の話ではありません。現在進行中の話です。女性はまだ男性と平等ではありません。フランスが議長を務めたG7で、私はジェンダー平等諮問委員会の共同委員長を務める荣誉に浴しました。さまざまな著名人で女性の権利にコミットしているかたがたと、ジェンダー平等のための法律に関するグッドプラクティス事例を79件特定しました。世界中のすべての大陸の議員が採択した法律です。彼らとともに1年間を通して作業をおこないました。そしてジェンダー平等に向けた四つの軸を基にした法的枠組みの導入を提案しました。

まず第1はジェンダーに基づく暴力に終止符を打つことです。ジェンダーに基づく暴力は、ジェンダーの不平等を継続させている一要素です。

第2は、教育と保健医療への権利を皆に確保することです。地域によって女性は教育にアクセスできません。健康医療、特に生殖医療に関してアクセスできません。女性だからという理由からです。

第3は経済的エンパワーメントを促進することです。多くの場所で女性は自分のビジネスをするために、いまだ夫に許しを得なければいけないのです。

最後に公共政策において、完全な男女平等を確保することです。例えばわが国の憲法は男女同数を謳



っています。ですので、大臣や議員は男女同数でなければいけないのです。しかし、多くの国でこのような先進的な法律が存在しますが、ただそのようなイメージを与えるだけで、現実には公共政策の世界では女性はまだ取り残されています。

日本も含め、各国首脳はG7のピアリッツパートナーシップにコミットしました。われわれの勧告を実施することを約束しています。女性の人権に関して、次回のG7までに少なくとも一つだけでも先進的な法律を導入すること、また差別的な法律を削除するというコミットです。G7のメンバーは最も豊かで最も先進的な国々ですが、そのような国でもまだ差別的な法律が残っています。従ってG7のジェンダー平等諮問委員会は、それぞれの国家元首が自国の法律を精査して、女性差別的な法律が撤廃され、反対に前進できるような法律を採択するよう提案しました。

もし世界で最も豊かな7カ国に、差別的な法律が残っているのであれば、地球で最も貧しい国がどうなのかということは考えるだけでも分かると思います。法律に基づく行動への呼び掛けは大変重要です。

しかし、最も重要なのは、法律や国際条約と世界中で女性が直面している現実のギャップを埋めることです。国際条約はすでにたくさん存在しており、これだけあれば平等に向かうような条約はもう要らないほどです。しかし、現在の女性が直面している現実は違います。不正や不処罰に対して具体的に闘わなければいけません。性暴力においては不正と不処罰が例外ではなく規範になってしまっています。

ご列席のみなさま、紛争下の性暴力の生存者に会うたびに、コロンビア出身だろうと、ウクライナ出身だろうと、イラク出身だろうと、彼女たちは国家と国際社会の意思を動員して、長年まん延している不処罰と闘ってほしいと強く要請してきます。不処罰は国レベルだろうと、国際レベルだろうとまん延しています。司法へのアクセスが不足していることや不処罰のせいで性暴力は続いています。紛争が終わった地域でも暴力は続いています。性暴力が普通のものとなってしまう、社会のがんのように転移し、不安定が残る地域で暴力は増幅しています。

そして必要なときにこの暴力をやめさせなかった人類社会には、彼女らの言葉に耳を傾け、真実を語り、どのようなことが起きたのか加害者を起訴し、裁く義務があります。そうすることによって彼女らに対する補償が可能となるのです。

武装勢力の司令官であったボスコ・ンタガンダに対する国際刑事裁判所（ICC）による有罪判決を歓迎します。さまざまな性暴力で起訴されましたが、初めてICCは性暴力を戦争犯罪と人道に対する罪と認めました。ボスコ・ンタガンダは大量のレイプを組織しました。民兵たちは妊婦の腹を裂きました。コンゴ民主共和国の東部で少女を性奴隷としました。この前例が紛争下のレイプのレッドラインになるように願います。国家がこのおぞましい犯罪の加害者を追及し、裁くことを促すように願います。

大量の遺体を埋めた穴の上や、真実と正義を否定した上にコンゴ民主共和国の平和は構築されません。もう10年も前になります。国連人権高等弁務官事務所はマッピング報告書を発表しました。これは1993年から2003年のコンゴ民主共和国における深刻な人権侵害と国際人道法違反に関する報告書です。この報告書は617件の国際犯罪を地図上にマッピングしたものです。この報告書の中には、戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイドを構成する要素が書かれています。ぜひ大学関係者にこの報告書を読んでい



ただきたいと思います。国際司法の欠陥がわかります。これらの犯罪の中には、女性が家族の前で生き埋めにされたことが書かれています。家族の前で叫んでいるのに、その穴に埋められたということがありました。国連人権高等弁務官事務所の報告書に書かれているのに、10年間何もなされてきませんでした。617件の犯罪があります。報告書を読んでいただきましたら、この犯罪の加害者はまだ権力の座にいたり、まだコンゴ民主共和国の軍にいたりすることがわかります。教会や家に人々を入れ放火して、貧しい人、少女、女性、子ども、老人を殺したことが書かれています。マッピング報告書の勧告は、コンゴ民主共和国のための国際法廷のような一時的司法メカニズムを推奨しています。それができなければ、特別混合法廷、真実委員会の設立を提案しています。また再犯を犯さないための保障プログラムを推奨しています。

私がお話ししているマッピング報告書の、勧告の実施に向けて、現在は何もなされていません。だからこそ、われわれはアドボカシーを行っているのです。ぜひサポートしてください。この報告書が司法と正義、真実のために活用されるようにコミットしてください。正義と真実がコンゴ民主共和国とアフリカ大湖地域の平和、ひいては世界の平和を構築するための不可欠な前提条件です。例えば生きた女性をそのまま埋めたのに何の追及もされなかった。教会に人々を集めて、生きたまま人々を焼き殺してしまったのに、その加害者を赤じゅうたんをひいて迎え入れている限り、人権や国際人道法には何の意味もなくなってしまいます。

ご列席のみなさま、正義と司法は効果的な犯罪の抑止ツールであるだけでなく、被害者の治癒のためにも根本的で重要なステップでもあります。多くの女性にとって正義と司法による裁きが存在意義になっています。私は多くの女性と会いました。あなたは強姦されたけれども、あなたのせいではないと言ってもらえるだけでいいという女性が多くいました。司法が彼女こそが被害者だったと認める、それだけで良いのです。

しかし、その正義には、法的、および訴訟手続き上多くの障害があります。表明するための扉が開かれるのには多くの障害があります。勇気を持って告訴した女性の多くが、残念ながら償いを永遠に得られていないのです。そのため2018年ノーベル平和賞の共同受賞者であるナディア・ムラドさんとともに、生存者のための世界基金の創立を呼びかけました。今月末、10月30日に設立されます。この革新的なメカニズムは生存者とそのニーズを中心に置いています。国内、および、国際司法の不足を埋めることを目的としています。国が責任を認めない国や地域に住む被害者のために、リハビリと個人や集団の社会再統合のプログラムやプロジェクトを通して、補償を提供するものです。また、国によっては補償したいけれども、技術的ないし金銭的なサポートを必要とする国があります。そういう国に住む被害者のための基金です。

ご列席のみなさま、性暴力には社会的・文化的な壁はありません。世界中で誰も私には関係ないと言えません。われわれすべてに関係する問題です。今、男性に平等と人間の尊厳の闘いにコミットしてもらおうよう呼びかけます。男性たちは家父長制度という有害な男性制から解放され、女性とともに皆の利益のためにコミットしてください。

ご列席のみなさま、私たちは未来と人類の資質を信頼し続けています。生存者の言葉が解放されるこ



とで、恥と烙印は被害者に対してではなく、加害者へと向けられるようになり、また、家父長制度の秩序に挑戦します。世界中の沈黙を守ろう運動や MeToo 運動等は、男性支配からのパラダイムシフトがすぐそこまで来ていることを示しています。それを皆でサポートして、男性もそれをサポートして、女性が沈黙を破れるようになれば、これらの過去のパラダイムを変えることができます。宿命などありません。より良くより正しい公平な社会を構築する道筋は存在します。すべての人の自己実現を可能とし、女性が男性と同じように尊厳を持ち、権利を享受できる社会の道は存在します。世界中の何千人もの女性の境遇に無関心ではなりません。G7 の国、フランスのような国でも、3 日に 1 人の女性が自分のパートナーに殺されています。あるいは女性として生まれたというだけで非人道的な扱いを強要されたりするのです。これはもう許せません。皆でノーと言いましょ。この非人道的な扱いにノーと言いましょ。男性も女性も連帯と協力を行い、相互を敬う精神の下に結集しましょ。個人と集団レベル、ローカルとグローバルレベルで、性暴力のないより良い世界を構築するためです。この夢は実現可能です。一人ひとりが現実を変えるために貢献できます。本日からともに行動を取りましょ。女性とともに結集し、より尊厳のある、より公正で平和な世界のために行動しましょ。ご清聴ありがとうございました。